

授業①：札幌市立上野幌中学校1年生 – 現代的なリズムのダンス

	1時間目	4時間目	7時間目
教師の発話			
生徒の振り返り記述			
会話のネットワーク (5分以上)			
会話のネットワーク (10分以上)			

佐藤光教諭の授業では、単元前半での個人課題への取組から、単元中盤での仲間との課題発見、そして単元終盤でのグループで課題解決に向かう状態という、**単元全体の流れが具体として表れた授業**となっていた。

本単元では、**授業づくりの段階で設定した単元目標の達成に向か**っていく**授業構成・授業内容**であったことがデータでも確認できる実践となっていた。

授業①：札幌市立上野幌中学校1年生 – 現代的なリズムのダンス

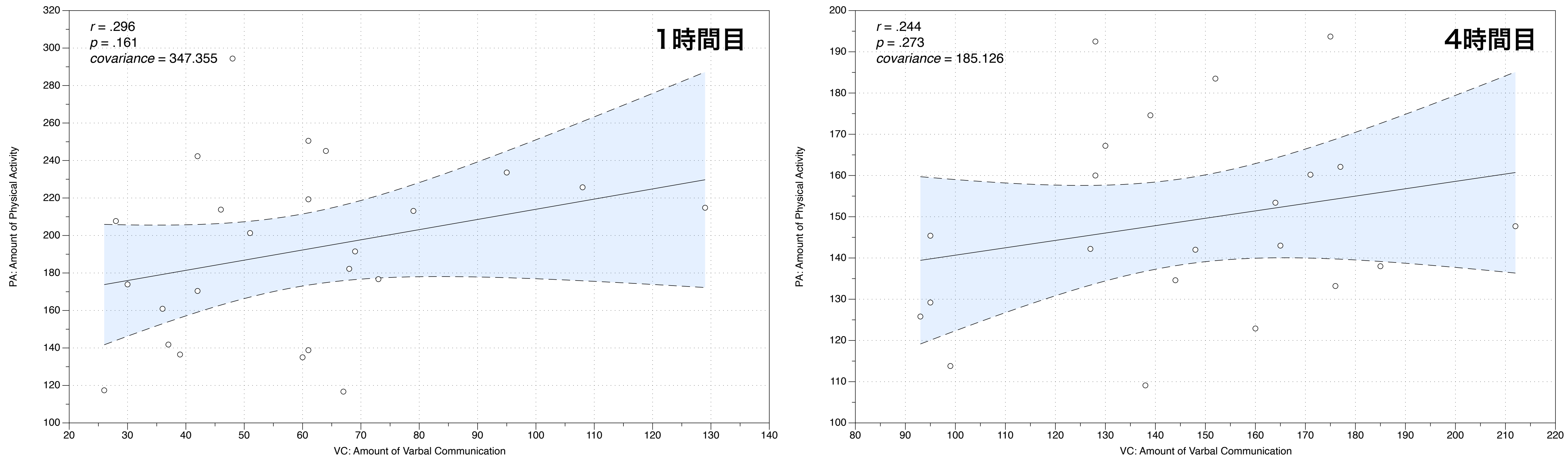


図. 単元1時間目・4時間目における身体活動量と言語的コミュニケーション量との関係

身体活動量 (Amount of Physical Activity: PA) と会話量 (Amount of Verbal Communication: VC) との相関関係 (上図) を確認すると, 1時間目および4時間目では有意な相関関係は確認できなかった.

授業①：札幌市立上野幌中学校1年生 – 現代的なリズムのダンス

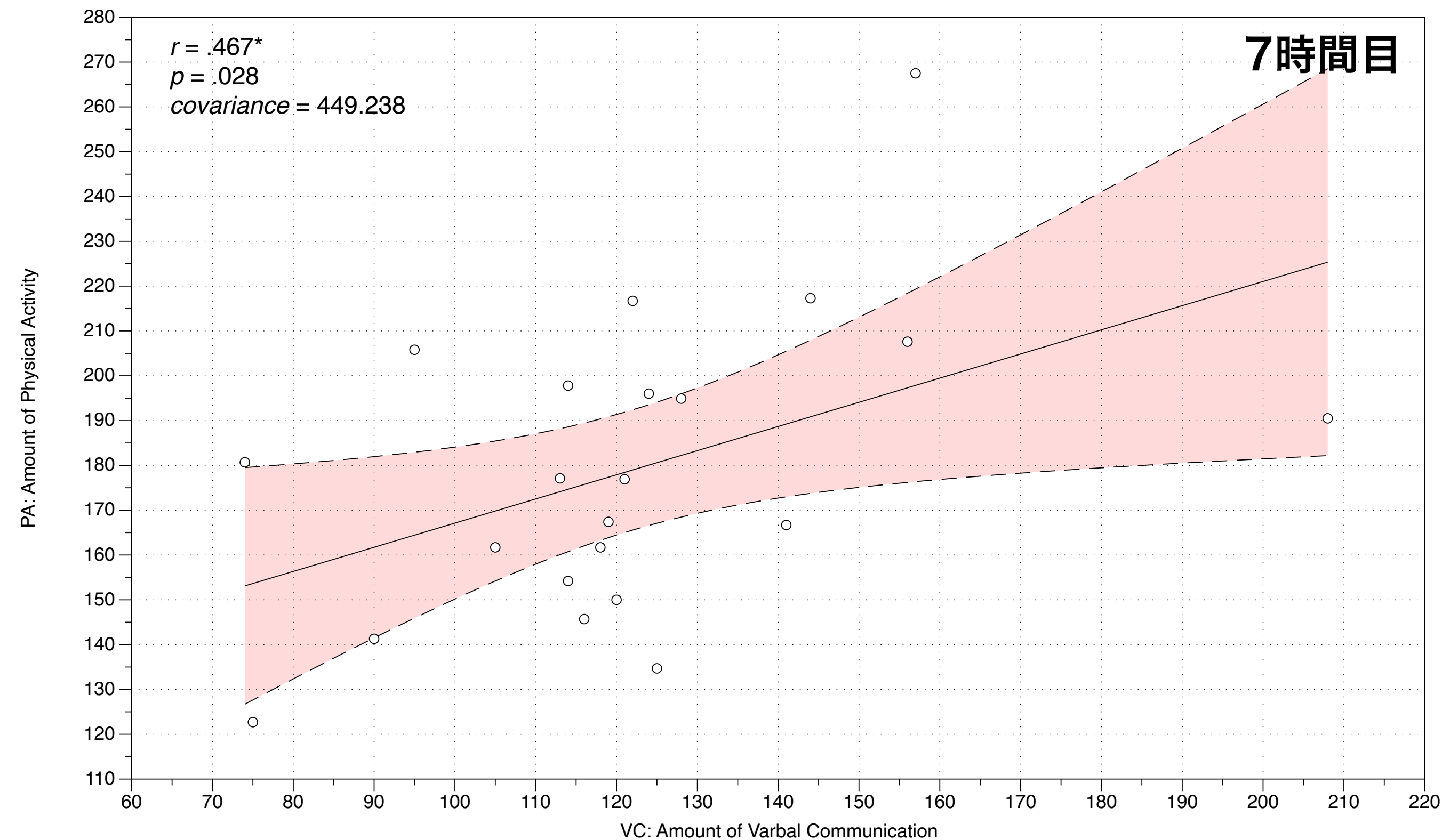
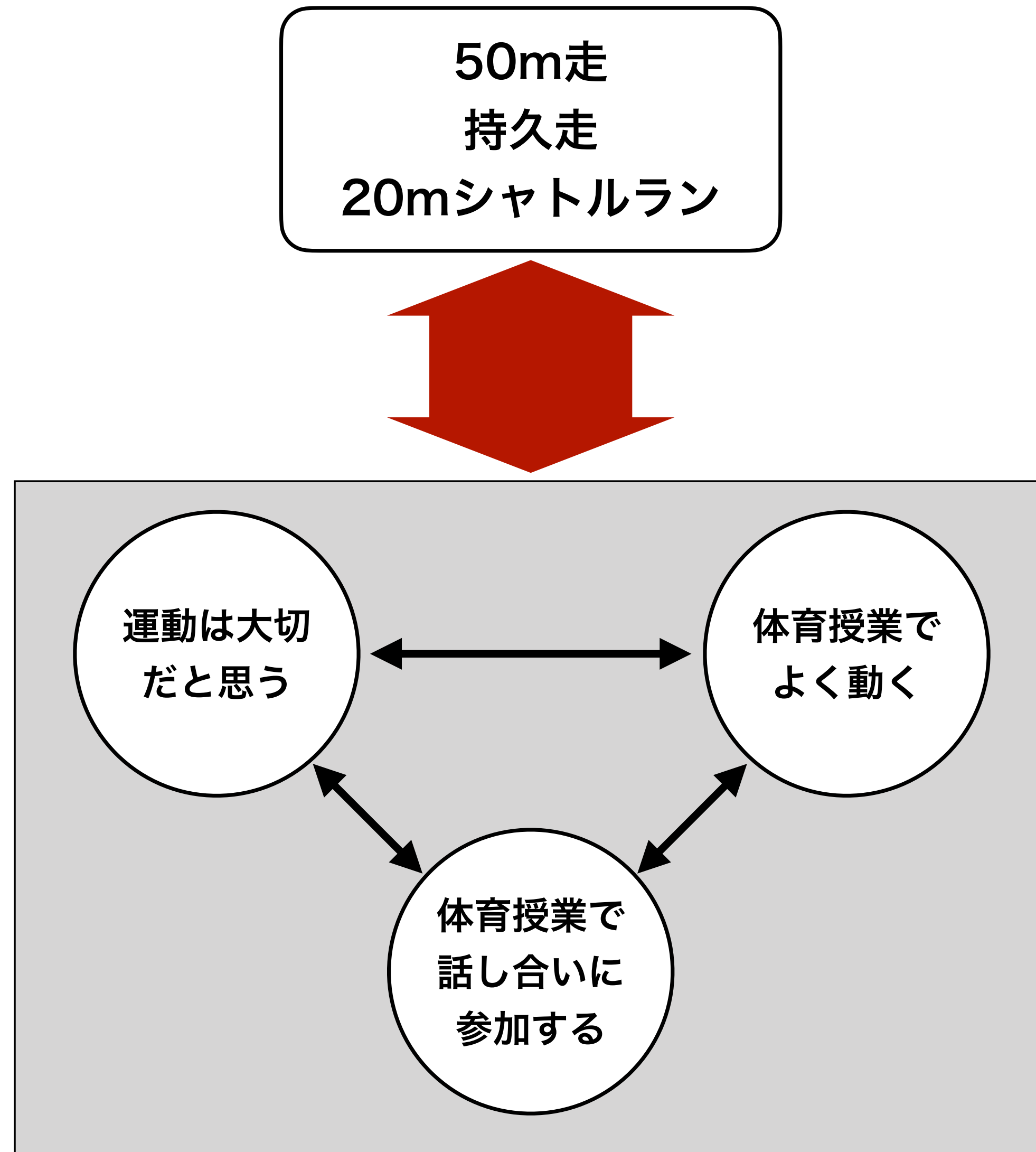


図. 単元7時間目における身体活動量と言語的コミュニケーション量との関係

単元7時間目になるとPAとVCが有意な相関関係となっていた。つまり、単元序盤の1時間目や単元中盤の4時間目では、運動量と話し合いに参加する時間とは特に関わりが見られなかったのに対して、単元での学習が進む中で、学習課題の把握や解決に向かう取組が進んでいる7時間目になると運動量の多い生徒ほど課題意識を持って話し合いに参加するように変化してきていることが窺える。

授業①：札幌市立上野幌中学校1年生 – 現代的なリズムのダンス



上野幌中学校の男子では、50m走・持久走・20mシャトルランの3項目すべてと有意な相関関係が認められたのが、「保健体育の授業ではたくさん運動しますか?」、「保健体育の授業で、積極的に話し合いに参加できていますか?」、「あなたにとって運動やスポーツは大切なものですか?」の3項目であった。この「運動は大切だと思ふ」、「体育授業でよく動く」、「体育授業で積極的に話し合いに参加する」の3項目はそれぞれの間での有意な相関関係も認められた。本研究課題で測定している実際の身体活動量についても、これらの因子との有意な相関関係が認められた。これからのことから、運動の大切さを感じる事が体育授業での積極的な態度と関連し、走力をベースとする体力ポイントにも影響するのではないかと推察される。

図. 男子の体力項目と体育授業での意識の関係

授業①：札幌市立上野幌中学校1年生 – 現代的なリズムのダンス

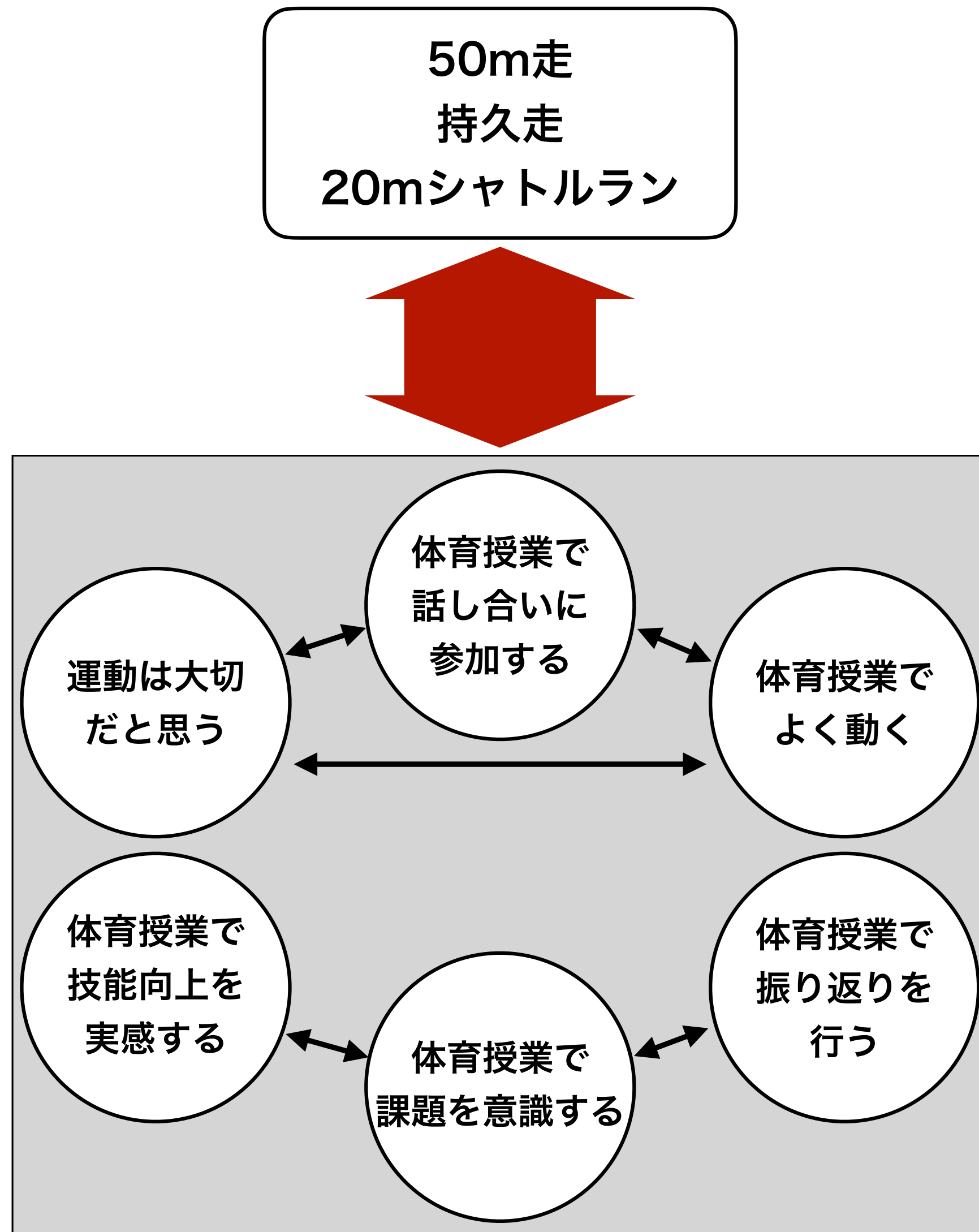


図. 女子の体力項目と体育授業での意識の関係

上野幌中学校の女子では、「保健体育の授業ではたくさん運動しますか?」、「保健体育の授業で、自分の動きの質が向上していることを実感することがありますか?」、「保健体育の学習に取り組む時に、自分の課題や目標を意識していますか?」、「あなたにとって運動やスポーツは大切なものですか?」の4項目が、50m走・持久走・20mシャトルランの3項目との有意な相関関係となっていた。また、実際の体育授業では「保健体育の授業で、積極的に話し合いに参加できていますか?」のポイントが高い生徒ほど、身体活動量が多い傾向にあった。

これらのことから、女子は運動の大切さと体育授業での積極的態度和の関連に加えて、体育授業での学習の振り返り、体育授業での技能向上、そしてそれらの要素をつなぐ体育授業での課題意識が、体力項目における走力に関係する部分と関係していると考えられる。

授業②：札幌市立中の島中学校2年生 - ネット型球技・バレーボール



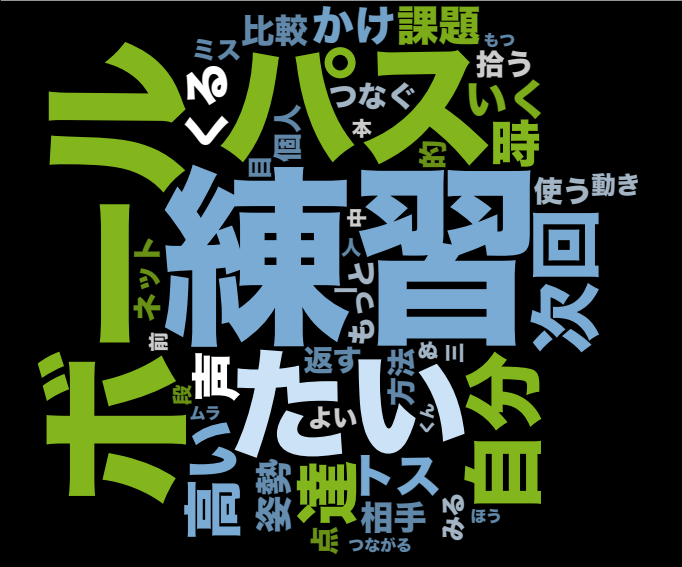



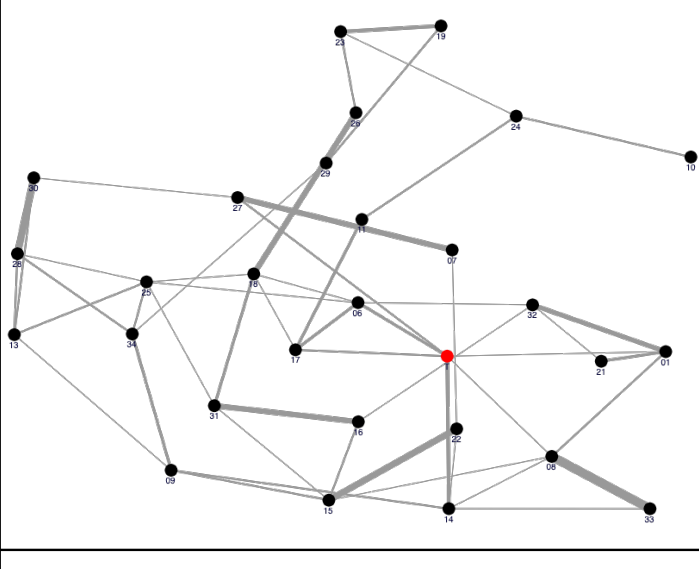
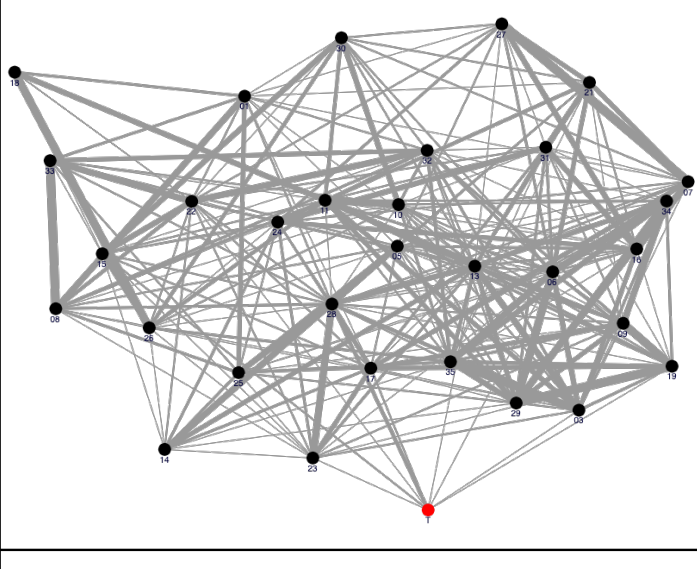
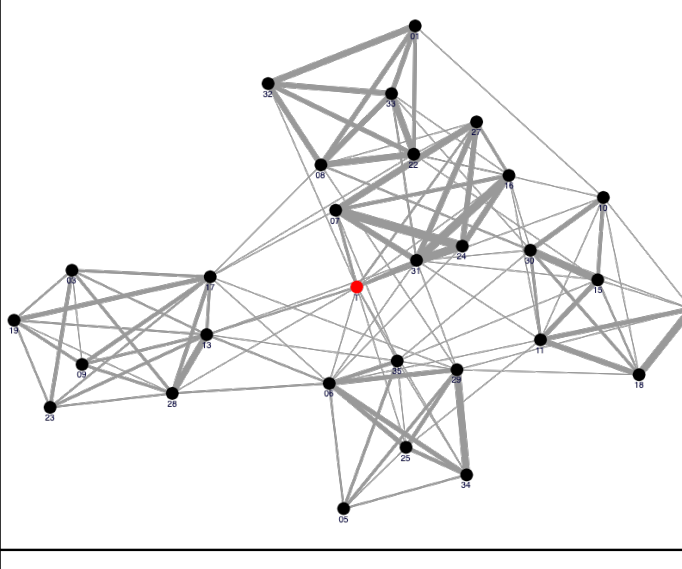
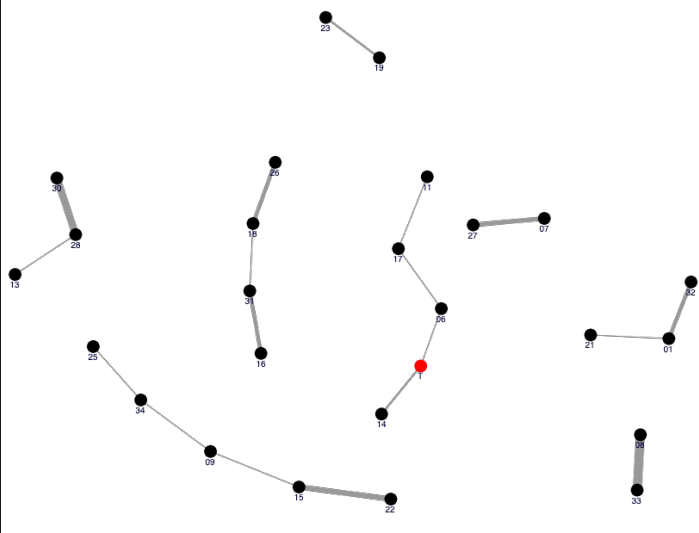
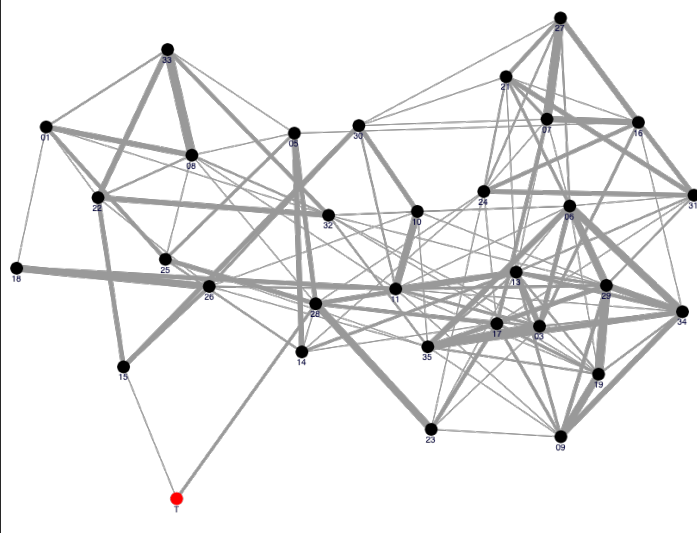
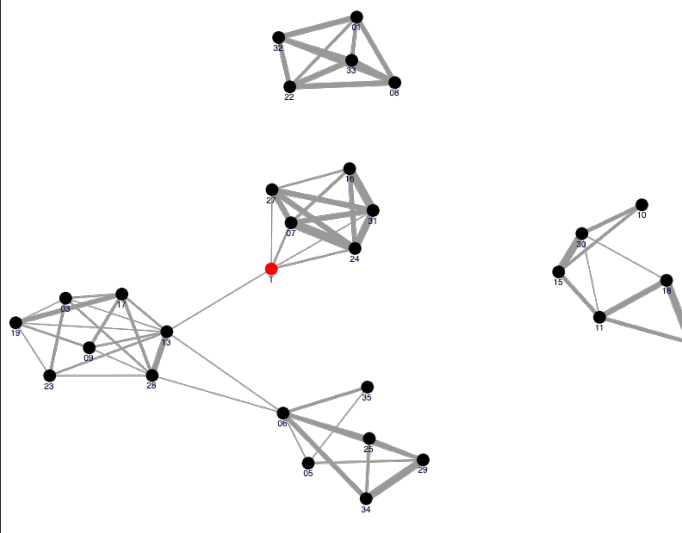
単元全10時間



第2学年 単元名 バレーボール（10時間）		指導と評価の計画											
単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、(その運動に関連して高まる体力) (など)を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。											
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。											
	学びに向かう力、人間性等	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、(作戦などについての話し合いに参加しようとする)、(一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする)、仲間の学習を援助しようとする(など)や、健康・安全に気を配ることができるようにする。											
単元の評価規準	知識	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したっている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。		技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	①相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。 ②相手側のコートに空いた場所にボールを返すことができる。 ③味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。	①提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ②体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。			①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②練習の補助をしたり仲間と助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ③健康・安全に留意している。								
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
目標	バレーボールの特性を理解し、学習の見通しをもつことができるようにする。		ボールを「拾う」、「つなぐ」、「返す」ためのポイントを理解し、ねらった場所にボールをつなげることができるようにする。		自チームの課題に応じた練習に取り組み、練習の良い取り組み方を選ぶことができるようにする。		相手チームからの返球に備えた準備姿勢をとることができる、つないだボールを相手コートの空いた場所に狙って返すことができるようにする。		仲間と協力して試合を楽しむ方法を見付け、仲間に伝えることができるようにする。				
学習の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・バドミントンの感想を共有する つなぐことが楽しかった。声かけの重要性。など ①試合の映像視聴 1「拾う」自分たちのコートに落とさない 2「つなぐ」味方にパスする 3「返す」相手コートに落とす という流れで得点を取ると楽しそうだった。 →バドミントンと同じように【繋いで返す】ことが面白いスポーツ ②ルールの確認 基本的技能(ドリル練習の確認) ○キャッチ&スロー ・バレーボールの扱いに慣れよう。 ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス etc. ○二人一組パス練習 ○チーム練習(前後レシーブ・1バウンド円陣パス) 		<ul style="list-style-type: none"> 《二人一組パス練習》 ※一人が下手投げしたボールをもう一人が返球する 【ポイント】・準備姿勢・定位置に戻る動き・ボールを捉える位置・足首や膝の使い方 《チーム練習》 ①前後レシーブ:三人一組で二つのボールを使用する。二人が前 後ろ交互に投げるボールをレシーブする。 【ポイント】・定位置に戻る意識・慣れてきたら、ボールの強さを変化させる ②1バウンド円陣パス:2バウンドする前につなぐ 【ポイント】・ボールを持っていない人の動き・慣れてきたら、バウンド回数を制限する ③L字パス 三人一組:下手投げされたボールを90度向きを変えて隣の人へパス 【ポイント】・ボールが来る方向から返したい方向へ体の向きを変える ④ボールを「返す」練習(キャッチスからの返球) :1.両手を使ってジャンプパス 2.片手でその場アタック 【ポイント】・狙ったところに「返す」ためには ・どこに「つなぐ」と 相手コートに3回でボールを狙った場所に返そう ○ゲームを振り返る ○3回返球ゲーム 5人〜6人 (chromebookのスプレッドシートを使ってチームのプレイの記録をとる) ■【ひろって、つないで、かえす RETOゲーム】 《3回返球ゲーム》 ※バレーボールコートに4人 ※ボールをコート外の味方が投げ入れてスタート (ルール) 3回以内に相手コートに返す。相手コートの落ちた場所にとった得点とつないだ回数で合計得点を算出する。各チーム10回試技す (攻撃のコツ) ・ボールを高く上げる ・パスする相手を明確にす ・返ししやすい位置につなぐ (バリエーション) ・2本目をキャッチしてからパスを出す ○観察する役割の入室を中心に「拾う」「つなぐ」「返す」のどの局面でのミスが多いかチームの課題を考える。 ・ボールを「つなぐ」準備ができていない。 ・ミスを減らしてラリーをつなぎたい。 ○振り返り →ボールを「拾い」、味方に「つなぐ」、相手コートに「返す」ために大切なことは何かを考える。 ・ボールが来る前に準備姿勢をとる ・ボールの落下点に早く入る ・味方のカバーをできるように予測する ・返す方向を見る ・返ししやすい場所にボールをつなぐ ○ゲームを振り返る 3回で相手コートにボールを「返す」にはどうしたらよいらうか。 →ゲームを行っていて感じたことや、観察、撮影して分かったことを共有する。 ・1本目が上がらないのは、ボールを「拾う」姿勢が準備できていないからかな。 ・返ししやすい位置にボールを「つなぐ」たら、返せる回数が増えそう。 ・「返す」ときにボールを高い位置で捉えることができているかな。 ○チームにあった練習方法を選択する ・拾う、つなぐ、返すそれぞれに特化したチーム練習から2つの練習を選択する。 ※同じ練習を選択することも可 ・10分の練習を2回、行う ○振り返り →自分たちの課題に応じて、練習の取り組み方を工夫できたかどうか考え、学習カードに書く。 ○ゲームを振り返る (観察、撮影して分かったことを共有する) ・相手から返ってきたボールを「拾う」局面のミスが多いね。 ・返ししやすい位置にボールを「つなぐ」ことができていないね。 ・せっかくつないだボールは丁寧に「返す」ことが大事だね。 ○振り返り →4対4のゲームを通して分かった、自分のチームの課題について整理する。 ○振り返り →自分たちの課題に応じて、練習の取り組み方を工夫できたかどうか考え、学習カードに書く。 										
	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム練習 ・相手から来たボールを拾えなかった。 ・相手とラリーを続けられるようになりたい。 自分たちのチームの課題を解決するために、どんな練習に取り組んだらよいらうか ○まとめのゲーム 大会 オールコートで6対6 2コートで5チームのリーグ戦を行う。その際、1チームは審判を行う。 ※審判のやり方については簡単に学習する ○振り返り ・「拾う」ための準備姿勢をとれるようになったから、ミスの数が減ってきたんだ。 ・ミスにしても、チームでカバーしあうことが大事だ。 												
知	①学習カード		②学習カード										
技			①・③観察						①・②観察				
思					②観察・学習カード						①観察・学習カード		
態	③観察				②観察		①観察						

※「知識・技能」、「思・判・表」については、各授業後や単元終了後にワークシートの記載等からも評価することで評価の信頼性を高めることができる。

授業②：札幌市立中の島中学校2年生 – ネット型球技・バレーボール

	1時間目	4時間目	7時間目
教師の発話			
生徒の振り返り記述			
会話のネットワーク (5分以上)			
会話のネットワーク (10分以上)			

白川敦教諭の授業では、単元前半での個人技能を中心とした課題への取組から、単元中盤でのグループでのパスの繋ぎ方やゲームに向けた準備、そして単元後半でのゲームを中心とした学習内容におけるチームでの課題解決に向かう状態という、**球技の単元として全体の流れや構成が授業成果として表れた結果となっていた。授業づくりの段階で設定した単元目標の達成に向かっていく授業構成・授業内容であったことが確認できる実践となっていた。**

授業②：札幌市立中の島中学校2年生 – ネット型球技・バレーボール

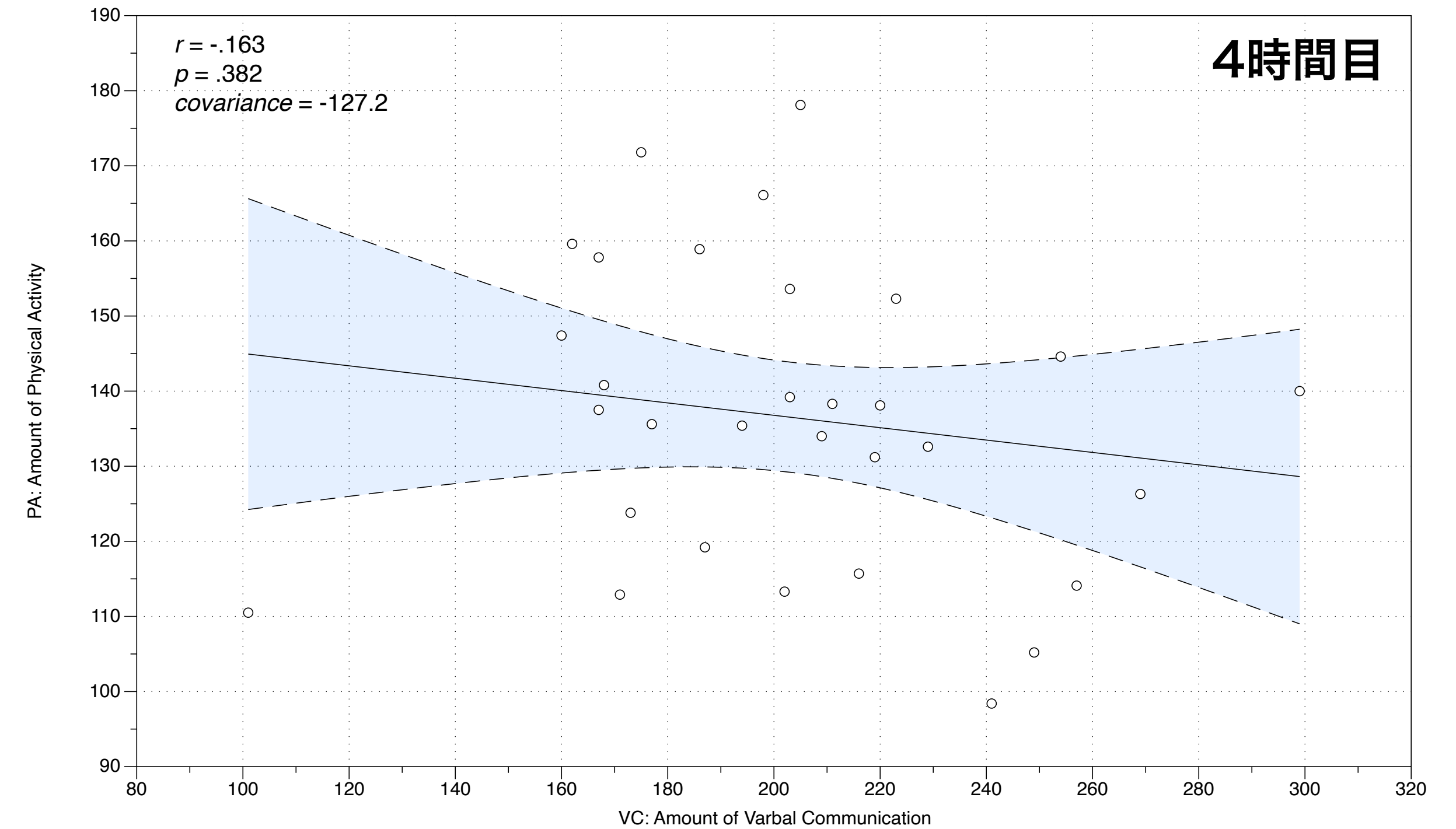
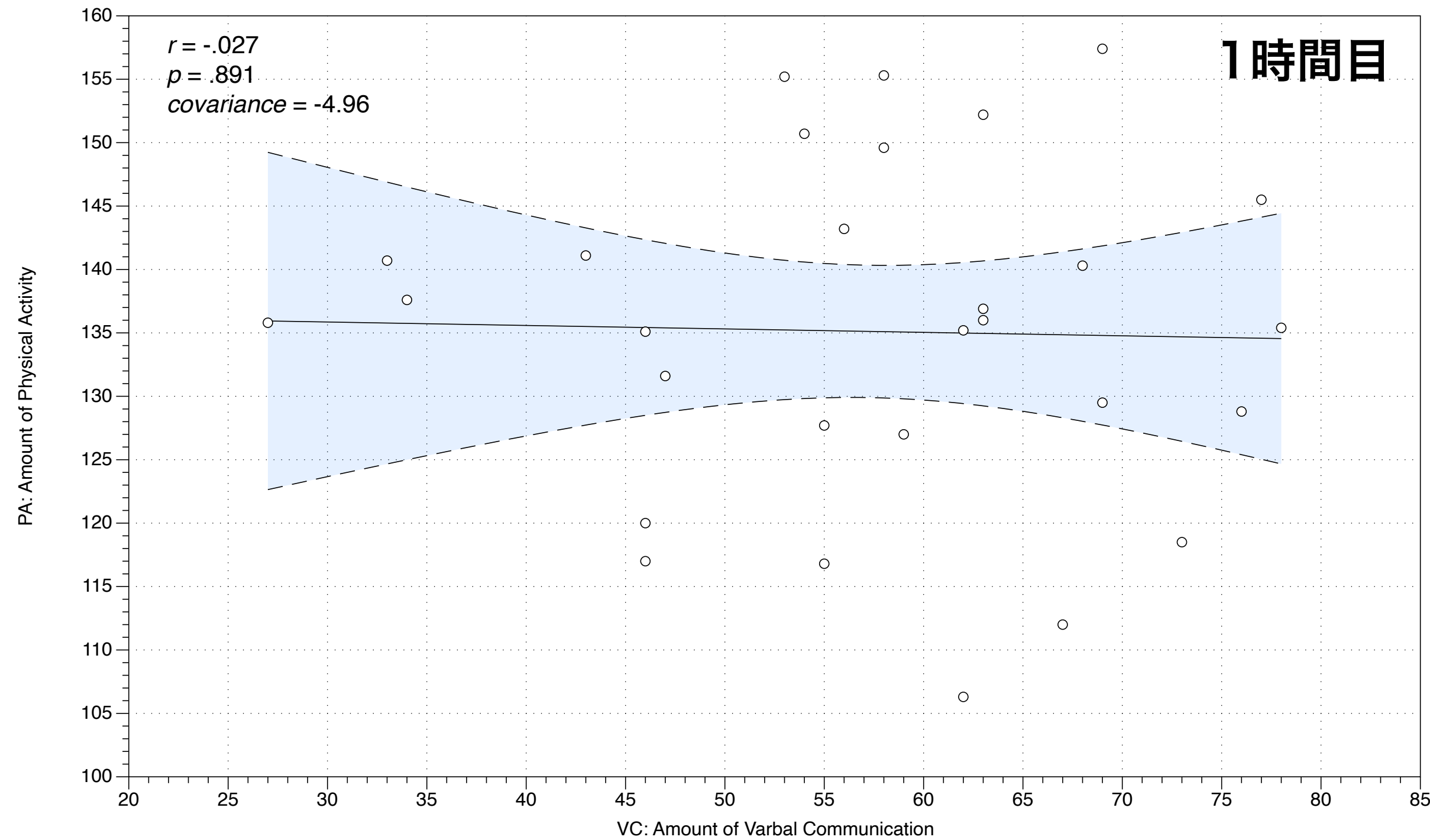


図. 単元1時間目・4時間目における身体活動量と言語的コミュニケーション量との関係

身体活動量 (Amount of Physical Activity: PA) と会話量 (Amount of Verbal Communication: VC) との相関関係 (上図) を確認すると, 1時間目および4時間目では有意な相関関係は確認できなかった。

授業②：札幌市立中の島中学校2年生 – ネット型球技・バレーボール

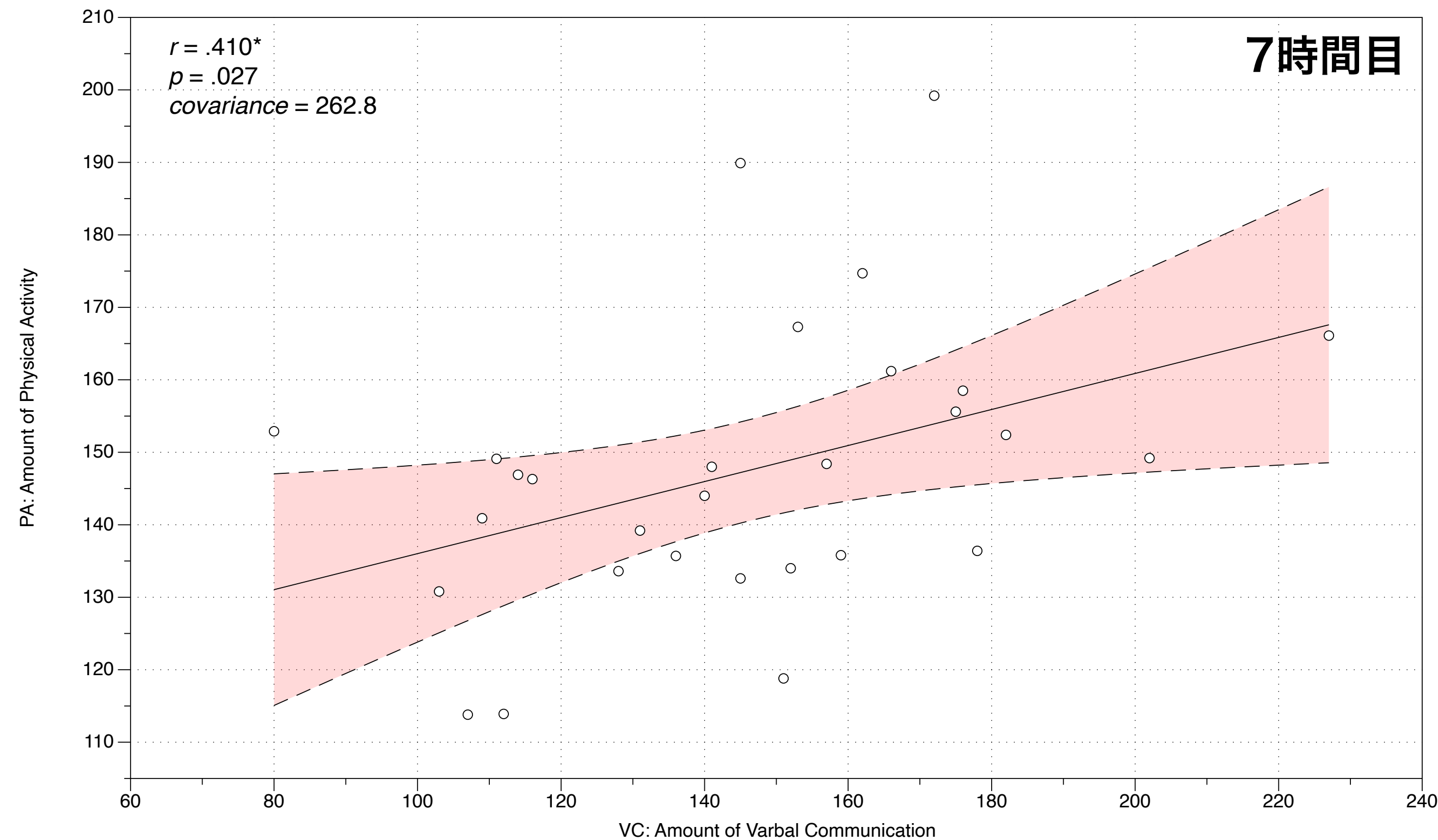


図. 単元7時間目における身体活動量と言語的コミュニケーション量との関係

7時間目になるとPAとVCが有意な相関関係となっていた。単元序盤の1時間目や単元中盤の4時間目では、運動量と話し合いに参加する時間とは関わりが見られなかったのに対して、単元での学習が進む中で学習課題の把握や解決に向かう取組が進んでいる7時間目になると運動量の多い生徒は話し合いにも積極的に参加するようになっていく傾向が窺える。これは、先述したダンス授業においても同様に結果となっており、単元の中で学習が進み学習課題の共有によって生徒の**課題への焦点化**が起こることによって、身体活動量と会話量の関連が強くなることとなると考えられる。

授業②：札幌市立中の島中学校2年生 – ネット型球技・バレーボール

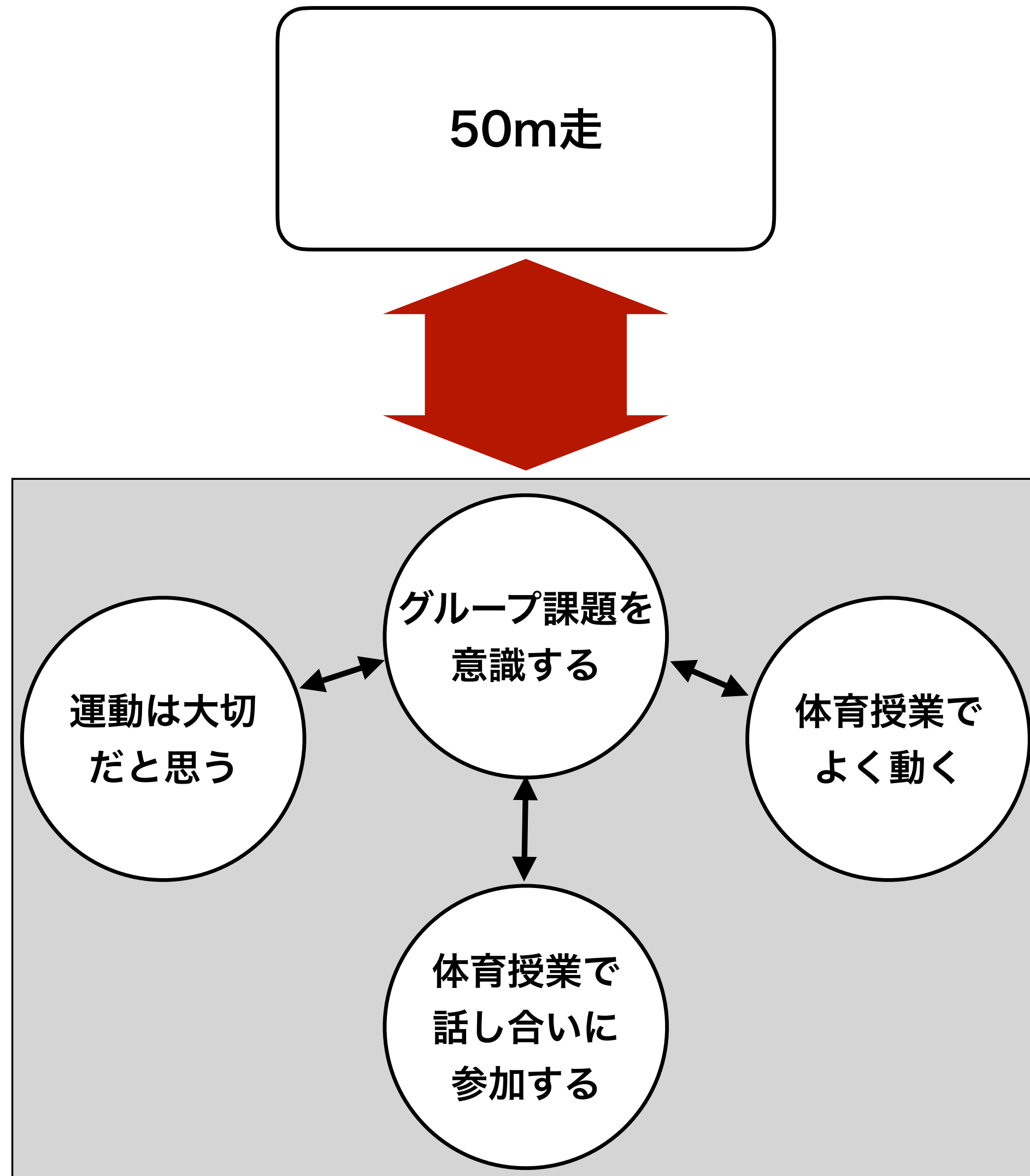
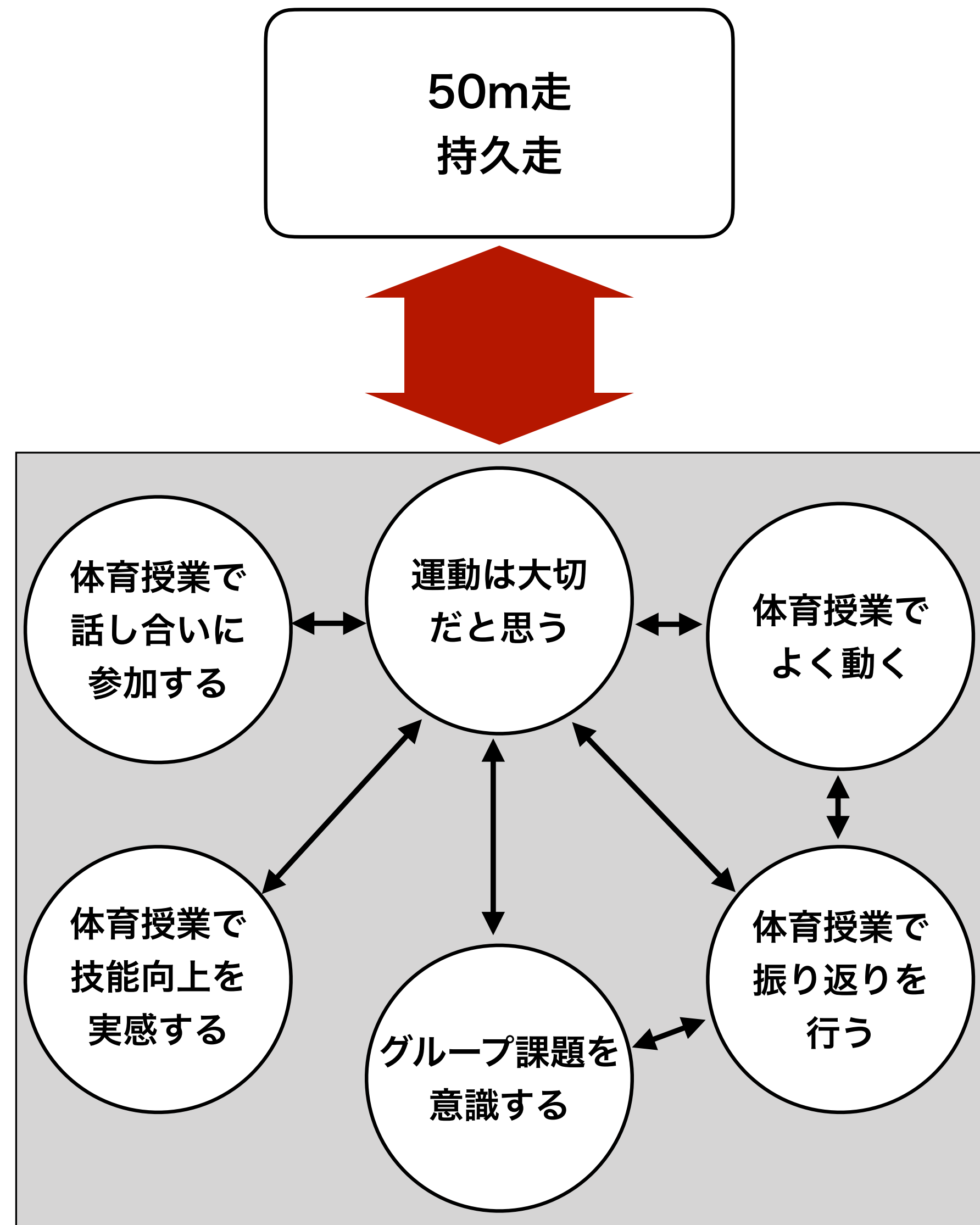


図. 男子の体力項目と体育授業での意識の関係

50m走および持久走のポイントと体育授業への意識との関連について、アンケート調査データから分析を行った。中の島中学校では20mシャトルランはデータ不足のため分析対象から除外した。その結果、男子では「保健体育の学習に取り組む時に、グループの課題や目標を意識していますか？」と「保健体育の授業ではたくさん運動しますか？」、「保健体育の授業で、積極的に話し合いに参加できますか？」、「あなたにとって運動やスポーツは大切なものですか？」という項目間で有意な相関関係が認められた。また、50m走と「保健体育の授業ではたくさん運動しますか？」、「保健体育の学習に取り組む時に、グループの課題や目標を意識していますか？」との間に有意な相関関係が認められた。

授業②：札幌市立中の島中学校2年生 – ネット型球技・バレーボール



中の島中学校の女子では、50m走および持久走と「保健体育の授業ではたくさん運動しますか？」、「あなたにとって運動やスポーツは大切なものですか？」の2項目が強く関連していた。また、「あなたにとって運動やスポーツは大切なものですか？」、「保健体育の授業ではたくさん運動しますか？」、「保健体育の授業で、自分の動きの質が向上していることを実感することがありますか？」、「保健体育の授業で、積極的に話し合いに参加できていますか？」、「保健体育の学習に取り組む時に、グループの課題や目標を意識していますか？」、「保健体育の授業の終わりに、その授業を振り返って良かったところや課題があるところについて考えていますか？」という項目間に有意な相関関係が認められた。

これらのことから、球技の単元において、「運動が大切だと思ふ」ことや「グループ課題を意識する」ことは、授業内の身体活動量に影響すると考えられる「体育授業でよく動く」と強く関連し、そのことが50m走や持久走といった走力に関わる体力とつながると考えられる。

図. 女子の体力項目と体育授業での意識の関係

本研究課題のまとめ

- ①授業技術の高い体育教師は、単元目標を起点に、**活動内容、各授業目標、単元の文脈を整理して構築**している。
- ②授業技術の高い体育教師であっても、授業の中で生徒の様子を観察しながら、**授業を柔軟に修正・改善**している。
- ③授業技術の高い教師の授業では、**単元目標に向かう一貫した学習プロセス**がデザインされている。
- ④身体活動量と会話量の相関は**単元後半の協働場面**で生じ、課題未把握の生徒には**教師のサポート**が必要となる。
- ⑤**体育の重要性の認識**や**課題意識・振り返りの習慣**が、**走力などの体力項目と関連**している。